～研修レポート～

総務文教委員会研修報告

平成24年1月26日～28日

東大和市（人口83,413人）
武蔵村山市（人口71,625人）

　東大和市では、小学校校庭と校舎屋上の芝生化について話を聞いた。元々、運動場の水はけが悪く、雨が降ると数日間運動場が使えない、また屋上の雨漏り対策が必要などの事情があり、その対策のひとつとして芝生化が選択された。運動場の利用団体の中でも、すべてが賛成というわけではなく、特に野球の団体は猛反対だった。芝生化した現在、スパイクが禁止となったため、野球の試合はできず、練習のみ行っている。しかし結果的には、砂ぼこりが少なくなり、子どもたちにも好評ということであった。

　武蔵村山市では、小中一貫校村山学園での公開授業を視察した。村山学園は平成22年度から小中一貫となったが、元々第4小学校の児童がそのまま第2中学校に入学するという1対1の学校だった。

　村山学園では、小中学校の先生の協力を得て行う「協力授業」や、小学生と中学生がそれぞれの狙いを持って一緒に授業を行う「交流授業」など、特色ある授業が行われている。

　またパネルフォーラムでは、教科担任制や、職員室を一か所にすることにより、小中一貫校との認識が職員側にも強くなり、今2年目を迎え、ひとつの学校になってきた実感がある、との報告もあった。

村山学園でのパネルフォーラム
（武蔵村山市）

議会だより編集委員会報告

23年度は5回（臨時号含）の議会だよりを発行しました。

コンクール入賞常連の議会だよりを研修

　11月16日、愛知県幸田町議会を訪ねた。筑後市同様5万人都市を目指す、温暖な美しい町である。

　幸田町議会だよりは、町村議会広報全国コンクールにおいて数多く入賞している。その議会広報特別委員会を訪ね、編集ノウハウなどを学んだ。

「文字より写真」「見出しの工夫」「専門用語は使わない」「紙面の使用割合の工夫」など、あくまで読者目線。読んでもらうための紙面づくりを心がけ、議会の情報をより分かりやすく伝える。読者が議会を身近に感じることができるような紙面づくりへの努力が理解できた。

　また、地元紙の中日新聞社から講師を招き、編集のための研修を行うなど、意欲的な取り組みも進められている。

　当市にもすぐに取り入れられる要素も多く、また新人議員が多い私たちの質問にも熱心に答えていただき、大変意義のある研修だった。

「余白や色づかいにもこだわりを！」
熱い思いを聞く

研修風景
（愛知県幸田町　人口37,946人）

広報研修会に参加

　11月22日、福岡市において開催された、広報研修会（福岡県町村議会議長会主催）に編集委員4人で参加。県内市町村議会から200人近い議員の参加があった。講師の城市創氏の分かりやすい説明に、編集作業の大切さや、住民の立場での編集を心がけるなど、改めて振り返るよい機会となった。今後、研修の成果を生かし、より親しまれる議会だよりの編集を目指したい。